

よりた寺通正

令和八年お盆号

南無大師遍照金剛

我々はお寺や仏像に手をあわせるとき「南無大師遍照金剛」と唱えます。これは弘法大師様をたたえて「遍照金剛」というのだとよく説明されます。しかし大事なのはそれだけではありません。「遍照」とは「あまねくてらす」つまり陰のない世界という意味なのです。大師の教えを実践すれば、一人一人がかがやく「金剛」つまりダイヤモンドのような人格となって、自分の中から佛の光を発して、まわりの世界を「あまねく照らして」陰のない日常が生まれますという意味なのです。お大師様の教えは深く広く簡単には理解できませんが、おかんきの「十善戒」の生活に他なりません。ご先祖を迎えるこの時期に一度「正通寺おかんき」の十善戒を読んでいただきたいと思います

阿弥陀院本尊

阿弥陀如来



阿弥陀院納骨堂にお祀りしています。
正通寺で法事をされたかたはご存知
でしょう。お寺の中ではとても明るい
場所にいらっしゃいます。

阿弥陀如来は別名、無量光如来・無量寿如来といえます。その名のしめす通り、無量の光でわれわれ人類の生命のつきるまで、我々を照らす徳をあらわす佛さまです。そして阿弥陀さまのもう一つの徳をあらわすことばが「ミョウカンザツチ妙觀察智」といいます。妙なる力で我々を觀察して導くという意味です。その右手からは光を出し、我々を照らし、その左手は我々を救うという動きをあらわしています。アミダといえば浄土真宗の専属のようにいわれますが、実はこの佛さまもまた大日如来の大きな五つの智慧の一つ「妙觀察智」から生まれた大日如来の分身なのです。